

# 「こおりやまの米」通信

平成28年5月1日



郡山市  
イメージキャラクター  
「かくとくん」

編集：郡山市  
JA 福島さくら郡山地区本部 (Tel. 921-0533)  
NOSAI 福島郡山田村支所 (Tel. 933-3307)  
県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課TEL924-3761)

Vol. 3 「田植～本田初期管理」 次回は6月1日発行

## 1 気象予報 東北地方 1か月予報 (4月23日から5月22日まで 平成28年4月21日発表)

<予想される向こう1か月の天候>暖かい空気に覆われやすくなります。4月30日～5月22日までは、気温は平年並み、または高い確率が40%です。天気は数日の周期で変わりますが、向こう一か月間の降水量は平年並みの確率40%とほぼ平年並み、日照時間は平年並みの確率30%とほぼ平年並みの見込みです。

## 2 田植え

- 育苗時の温度管理を徹底し、健苗移植に努めましょう。なお、病害の防除が必要な場合は農薬の使用回数のほか、成分ごとの使用回数にも注意して防除しましょう。
- 低温時や強風時の移植は植え傷みが生じるので、移植は天気の良い日に行いましょう。
- 植え付け本数は1株当たり3～4本とし、苗が転ばない程度に浅く植えましょう。「天のつぶ」は坪当たり70株植えを基本とします。  
【深植えすると・・・】 下位分げつが発生しにくく、生育が遅れる。  
【植え付け本数が多いと・・・】 ①肥料切れが早くなる。 ②茎が細くなる。 ③酸素不足で根も細くなる。
- 田植え後は速やかに湛水し、活着までの3～5日間は深水管理を行いましょう。
- 弁当肥の施用：葉色が極端に淡い場合は田植え2日前頃に1箱当たりチッソ成分1g程度を弁当肥として追肥すると活着が良くなります。

## 3 いもち病対策 「地域全体で葉いもちの防除に取り組みましょう！！」

### (1) 箱施用剤の使用

◆◆◆特定の薬剤に耐性のあるいもち病菌が確認されています。同一系統の農薬の連用は避けましょう◆◆◆

特に、「QoI剤」や「MBI-D剤」は広範囲で耐性菌が確認されているので、同系統の連用は行わず、その他系統の薬剤とローテーションして使用してください(表参照)。

(例) 箱施用剤で「嵐プリンス箱粒剤6」(QoI剤)を使用した場合は、穂いもち防除の時に本田散布剤として「コラトップ粒剤5」(QoI剤以外)を使用する。

表：主ないもち病防除剤の種類

	農薬名
箱施用剤	デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、Dr.オリゼダントツ箱粒剤、(※ <sub>1</sub> 嵐プリンス箱粒剤6)、(※ <sub>2</sub> デラウススタークル箱粒剤)
本田散布剤	オリゼメート1キロ粒剤、コラトップ粒剤5、フジワシ粒剤、(※ <sub>1</sub> イモチエース剤)、(※ <sub>2</sub> アチーブスタークル粉剤DL)

※<sub>1</sub>QoI 剤系統 ※<sub>2</sub>MBI-D 剤系統

### (2) 置き苗の処分

葉いもちの発生源は、補植用の置き苗です。

- ・補植作業を行う場合は5月末までには完了し、置き苗は水田内に放置しないようにしましょう。
- ・補植は欠株が連続している所だけで十分です。
- ・補植が終わったら直ちに置き苗を処分しましょう。

補植用の苗箱にも、箱施用剤の散布を忘れずに！



## 4 雑草防除 「除草剤は遅れずに散布しましょう！」

### (1) 初中期一発剤使用上の注意 (除草剤散布後7日間は落水しないようにしましょう！)

- 補植は除草剤の散布時まで終了させておいてください(除草剤の効果が低下する可能性があります)。
- 水口・水尻はしっかり止めて、決して除草剤が流失しないように注意しましょう。畦畔の漏水防止もあらかじめしておいてください。
- 散布時は十分な水深(5cm以上)にすると、土の表面に均一な処理層が形成されます。また、深水にすることで、雑草が茎葉からも農薬成分を吸収するため、十分な除草効果が発揮されます。

### (2) 万が一雑草が残ったら・・・ 残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

ヒエだけが残った場合

⇒クリンチャー1キロ粒剤

移植後7日～ノビエ4葉期(但し、収穫30日前まで)：1kg/10a湛水散布

または移植後25日～ノビエ5葉期(但し、収穫30日前まで)：1.5kg/10a湛水散布

ヒエ以外の雑草も残った場合

⇒ザーベックスDX1キロ粒剤 移植後20～30日(ノビエ3.5葉期まで)：1kg/10a湛水散布

【注意】※著しい葉害を発生する場合がありますので、30℃以上の高温が予想される場合は使用しない。

広葉雑草だけが残った場合

⇒パサグラン粒剤(ナトリウム塩) 移植後15～55日(但し、収穫60日前まで)：3～4kg/10a落水散布、又はごく浅く湛水して散布を行う

【注意】処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。

**除草剤に記載のある雑草葉齢は、ほ場内で最も生育が進んだ雑草の葉齢です。散布適期を逃さぬよう注意しましょう！！**

4/1~5/31

春の農作業安全運動展開中！



平成27年度は福島県内で8件の農作業死亡事故が発生しました。このうち6件（うち郡山市内で1件）が4～5月に集中して起きています。

この時期は耕うん、代かき等の機械作業が続く、農作業事故が急増する傾向にあります。余裕を持った作業計画を立て、機械操作に十分注意を払い農作業事故防止に努めましょう！！

平成27年度の事故事例

田植機で移植後、ほ場外へ出るときに操作を誤りあぜから転落した。

【原因】

作業を急いでいた

【対策】

- ・余裕を持って作業する。
- ・ほ場の進入・脱出時、あぜ越え時は特に注意を払う。

乗用トラクターで走行中に道路から転落し、下敷きになった。

【原因】

- ・路肩に寄りすぎた。
- ・スピードを出し過ぎた。
- ・ブレーキを連結しなかった。

【対策】

- ・路肩に注意して安全運転を。
- ・ブレーキ連結の確認。

ばか苗の抜き取りは

お早めに！！

ほ場内に持ち込むと抜き取りが大変です。



移植前に苗をよく確認し、発病した株はほ場に持ち込まないようにしましょう。

苗床で感染しても発病せずに、移植後に病徴が現れることがあります。



移植後もほ場をよく観察し、罹病株は根も含めて株ごと抜き取り、ほ場の外で埋設処分しましょう。

※放射性物質の吸収抑制のため、配布の塩化カリ（20kg/10a）は必ず基肥で散布してください。

【農地の除染が平成28年度で終了します】

郡山市では、平成23年度から平成27年度までの計画で農地除染を実施してまいりましたが、追加申込みが大変多かったことから、平成28年度まで計画を延長し実施してまいりますので、申し込まれた方は、今しばらくお待ちください。

また、今年度が計画最終年度となりますので、新たな申込みの相談がある場合は平成28年5月31日までに郡山市園芸畜産振興課までご相談ください。なお、これ以降の申込みについては対応することが困難ですので早めにご相談ください。

除染実施地区及び面積（平成27、28年度面積については完了予定面積）

年度	23	24	25	26	27	28
実施地区	大槻町、喜久田町、日和田町、富久山町、西田町	旧市、大槻町、喜久田町、日和田町、富久山町、西田町	旧市、大槻町、喜久田町、日和田町、富久山町、西田町、片平町、三穂田町	安積町、片平町、三穂田町、逢瀬町	安積町、片平町、三穂田町、逢瀬町、熱海町（一部）	既に申込みを頂いている農地の内、平成27年度中に実施できなかった農地
面積（ha）	45	789.5	782.9	653.7	1,229.2	615

※国の規定により空間線量が0.23μSv/hを下回る場合は除染の必要はありません。

※除染方法など、詳しい内容は市ウェブサイトをご覧ください。